

TSUMUGI

vol.13 — 2023.7



医療におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)について



病院事業管理者 清水 康一
(しみず こういち)

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 臨床研修指導医

新型コロナウイルス感染症の大流行によって、我が国の医療制度における様々な問題点が浮き彫りにされました。その1つは医療デジタルトランスフォーメーション(DX)の遅れです。DXとは、デジタル技術の活用によって社会や生活の形・スタイルを変えることであり、医療DXとは、デジタル技術の活用によって医療分野を変革することといえます。昨年度、政府は内閣官房に「医療DX推進本部」を設置し、全省庁が一体となってこれを推進しようとする姿勢を示しています。デジタル大臣に河野太郎氏を起用したことを見ても、迅速に、そして強力に実現しようとする意気込みが感じ取れます。ただし、セキュリティやプライバシーの保護には十分な対策を講じて、拙速にならないようお願いしたいものです。

「医療DX推進本部」が取り組もうとしていることは、(1)「全国医療情報プラットフォームの創設」、(2)「電子カルテ情報の標準化等」、(3)「診療報酬改定DX」の3つです。(1)は、オンライン資格確認等システムを拡充して、レセプト・特定健診情報、予防接種、電子処方箋情報、電子カルテ等の医療情報などを一元的に管理し、スムーズに共有・活用できるようにしようというものです。(2)は、(1)の取り組みを実現するために電子カルテの規格を標準化

し、集積したデータを治療の最適化や新しい医療技術の開発、創薬などに有効活用していこうというものです。(3)は、診療報酬やその改定に関する膨大な業務を効率化し、医療保険制度全体の運営コスト削減を目指すというものです。これらが実現されれば、医療現場や介護現場において業務の効率化、コスト削減につながってくると考えられます。そして、人工知能(AI)やロボットなどのツールが広く実用化されれば、人手不足の解消のみならず、人為的ミスを減らすことができ医療安全の観点からもメリットがあります。さらに、遠隔操作によるロボット手術の実現などオンライン診療がより発展すれば、居住地域による医療格差もなくなってきます。

加賀市は国家戦略である「デジタル田園健康特区」に指定され、「医療版情報銀行」の構築に向けて取り組んでいるところですが、これはまさに「全国医療情報プラットフォームの創設」の先駆けのモデル事業です。加賀市医療センターは、このプロジェクトを推進・実践する上で中心的な役割を担っており、今後様々な取り組みを展開していくことになります。市民の皆様、地域医療機関の皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

マイナンバーカードが健康保険証として使えます

当院ではマイナンバーによるオンライン資格確認ができます。設置場所は受付窓口、再来受付機、時間外窓口の3カ所です。利用方法はマイナンバーをカードリーダーに置き、顔認証もしくは暗証番号(4桁)を入力し本人確認を行います。

初めての方で、保険証利用登録を行ってない方でも当院で利用登録できます。



オンライン資格確認によるメリット ※健康保険証も引続き利用できます

医療の質の向上

患者さんの薬剤情報や特定健康情報の閲覧が可能になり、適切な診療・投薬ができるようになります。

※閲覧には受診ごとに同意をもらい、医師のみが閲覧



- 最新の保険資格情報をその場で取得
- 受付業務の負担軽減
- 限度額情報等の取得、活用

新型コロナウイルス感染5類移行で 変わる事、変わらない事



副院長
感染管理者 近澤 博夫
(ちかざわ ひろ お)

- 点滴療法認定医
- IVC認定医
- キレーション療法認定医
- 臨床研修指導医
- 地域包括医療・ケア認定医
- 診療情報管理士
- ICD制度協議会認定ICD

5月8日から、新型コロナの感染症法上の取り扱いが2類相当から5類へと変更になりました。「季節性インフルエンザと同じ」となったわけですが、感染症法上の位置づけが変わるだけで、ウイルスが5類に合わせて変化するわけではありません。(ウイルスは忖度してくれません)

具体的に5類になると社会的にはどう変わるか。まず保健所の入院調整・隔離指示などはなくなり、それと同時に各種医療費も、公費負担から自己負担(保険診療)に変わります。

ただし、新型コロナの薬はとてもお高いので、しばらくは公費負担です。(新型コロナ治療薬の1治療あたりの価格は、5~10万円)

☆**外来診療費や入院費**で自己負担発生。発熱外来や民間

の無料検査、検査キット無料配布は無くなる。

今のところ軽症化となった新型コロナウイルスですが、**ウイルスの感染力自体は、変わりません**。基本の感染対策を怠ると、「クラスター発生リスクは高まる」と考えています。そのため、5類になっても、今まで同様、「うつさない・うつらない」のがポイントです。

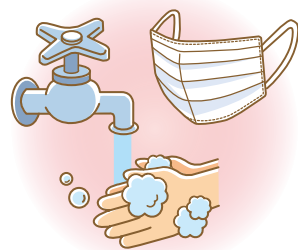
重要なのは、手洗いとマスクです。一部では、ウイルスはマスクの目より小さいので、100%防ぎきれないと言っています。確かにそのとおりですが、かなりの確率で防ぐことができます。

実際、◎マスクの着用で、感染リスクは1週間当たり0.84倍に下がり、2週間当たりだと0.76倍に下がる。

◎マスク着用に積極的な集団では、新規感染者数や入院患者数、死者数を減少させる効果がある。

◎マスクの着用者が10%増えると、そうでない場合に比べて3.53倍、流行が制御しやすくなる。…など、マスクに関する論文も出ています。

人混みなど、必要な所ではマスクで感染対策を続けるのが望ましいです。



睡眠時無呼吸症候群の検査機器を更新しました



当院では2023年4月より、睡眠状態を総合的に評価できるPSG(終夜睡眠ポリグラフィ)の機器(睡眠評価装置)を更新しました。主に睡眠時無呼吸症候群の検査に用いられ、1泊2日入院して検査するもの(精密法)と、簡易機器を患者さんにお持ち帰りいただいて自宅で検査できるもの(簡易法)があります。

従来の精密法では機器本体と身体が繋がっていたために、ポータブルトイレを利用していただいていたおりましたが、新機器はBluetoothで通信しており、機器と繋がっていないため、病室内のお手洗いが使用できるようになりました。簡易法の機器もサイズが小さくなり、睡眠の際の不快感が軽減しました。

また、新たに鼻の通りやすさや通りにくさといった、鼻呼吸の状態を客観的に検査できる鼻腔抵抗計測装置(左のイラスト)も導入されました。睡眠時無呼吸症候群においても鼻腔通気性の重要性が広く知られており、診断や治療に役立ちます。

地域連携センターからのお願い

当院では紹介患者さんの事前予約をお願いしております。紹介予約の患者さんを優先に診察し、待ち時間が短くスムーズな診療を受けられます。

また、指定の医師や専門外来医師に紹介される場合は、必ず事前にお問い合わせいただきますようお願いいたします。

